

大学院獣医生命科学研究科
令和7(2025)年度 第1次入学試験
獣医保健看護学専攻 博士後期課程

専 門 科 目
動 物 感 染 症 学

「出題意図」

動物感染症学の発展から目指す目的の重要な点は、動物感染症の制御または撲滅といえる。それらを達成するには、動物感染症の感染源や感染経路、発病や病態を知ることが必須であり、もって感染予防策を講じることができる。

牛ウイルス性下痢（BVD）は、BVD ウイルスが牛に感染することによって生じる牛の伝染性疾患であり、日本国内においてもまん延して畜産に危害をもたらしている獣医業界における牛の重要疾患である。BVD は、一般的な感染症の知識等で理解可能な急性感染と、他の疾患でも類をみない持続感染があり、BVD ウイルスの持続感染は獣医学領域においても特筆されるとともに、持続感染牛の産出をいかに制御するかが対策における鍵となっている。

本問題は、本専攻の動物感染症学のテーマの一つとなっているBVD ウイルス感染症を例に、その対策の開発等につなげるための基礎知識を問うことを目的に出題した。BVDの持続感染牛、免疫寛容による持続感染、臨床的特徴に乏しいこと、いつ致命的な粘膜炎するかわからないことなどが記載されていることにより、持続感染牛の産生予防と早期発見が重要であることの推察が期待される。